

令和元年度 第4回花き技術向上研修を開催しました

「花きの開花整理を踏まえた電照等技術導入について」

1. 開催日時

令和2年2月12日（水曜日）13時00分～15時30分

2. 内容

出席者数：花き生産者など27名

場所：フラワーLESSンルーム

キク類では電照等により開花調整が重要であることから、試験研究や現地実証について取組んでいる講師をお招きし、研修を行いました。

（1）花きの開花生理を踏まえた電照等技術導入について

講師：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門
花き遺伝育種研究領域上席研究員 住友克彦 氏

盆彼岸の物日需要が大きいキク類は、物日を「はずさない」ための努力として開花調整が重要であり、気温に左右されやすいエチレンよりも電照による量的な電照抑制が効果的とお話いただきました。

地域ごとに、自然開花期を把握し、消灯時期ごとの電照反応と高温開花性から選抜することが必要で、岩手県は7月20日～31日までの自然開花品種の選定が重要と説明いただきました。



（2）秋田県における花きの開花生理を踏まえた電照等技術の導入事例について

講師：秋田県農業試験場 野菜・花き部 花き担当 主任研究員 山形敦子氏

秋田県は、岩手県と同様、夏秋小ぎくの生産が不安定であったことから、安定生産にむけた電照技術の導入を進めていると報告いただきました。

電照技術導入に際して維持費がかかる白熱電球に替わる赤色LEDでは、一部開花抑制しにくい品種があることを明らかにされ、選抜では形質よりも需要期にいかに関花させるかを重点におき、電照単体でかかる初期投資を、単価上昇、栽植密度変更、移植機導入による労賃コスト減で収支改善を図っているほか、助成施策も併せて実施しているとのことでした。

